

環境報告書 2023

2023/4/1-2024/3/31



焼津水産化学工業株式会社





目次

- ▶ I. トップメッセージ
- ▶ II. 環境理念・環境方針・環境活動推進体制・コーポレートガバナンス体制
- ▶ III. 会社概要・事業概要
- ▶ IV. 工場周辺の環境に対する取り組み
 - ・ばい煙測定　・騒音、振動調査　・臭気測定　・排水浄化の取り組み
- ▶ V. 地球温暖化防止への取り組み
 - ・工場での取り組み　・事業所での取り組み　・営業活動での取り組み
- ▶ VI. 環境コミュニケーション　CSR活動報告
- ▶ VII. 工場における物質とエネルギーの流れ
- ▶ VIII. 環境目標および実績
- ▶ IX. 当社全事業所のエネルギー使用について
- ▶ X. 環境関連法規への違反・訴訟の有無

この環境報告書について

- ▶ 焼津水産化学工業グループは日本、東アジア、東南アジアを主要地域として、「調味料」「機能食品」「水産物」「その他」の4領域で事業を行っています。

当社グループは、天然素材の持つ無限の可能性を追求し、“おいしさと健康”を通して豊かな生活に貢献することを企業理念とし、ステークホルダー向けの「10の約束」の1つとして、「環境保全に努め、地球環境にやさしい活動を行う」ことを定めています。

この報告書は、当社グループのこのような環境に配慮した姿勢と、環境負荷の低減を図る活動の進捗状況を確認するとともに、ステークホルダーの皆さまにお知らせすることを目的とし、作成しました。

- ▶ 報告対象期間：2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)
- ▶ 記載対象範囲：
焼津水産化学工業株式会社 日本国内全事業所
※「工場における物質とエネルギーの流れ」および「環境目標および実績」は工場のみ
- ▶ 参照したガイドライン：
環境省「環境報告ガイドライン」(2012年度版)

企業理念

焼津水産化学工業グループは、
天然素材の持つ無限の可能性を追求し、
“おいしさと健康”を通して
豊かな生活に貢献します。

トップメッセージ

- ▶ 当社では、「価値創造の加速」を経営ビジョンとして、(1)安全・安心の向上、(2)国内事業（調味料、機能性）の強化、(3)海外展開の加速、(4)新たな事業分野の創出の4つの基本戦略へ経営資源を投入しております。
- ▶ 当社が天然素材を原料として製造し販売する製品は、人々の基本的な要求である“おいしさと健康”に正面から向き合った結果生まれたものです。今後も天然素材の無限の可能性を追求し、価値あるものづくりを続け、人々の豊かな生活に貢献するためには、社員一人一人が地球の恵みに感謝し、持続的な発展のための意識を強く持って活動していくことが求められます。
- ▶ 温暖化をはじめとする地球環境の変化は、天然素材を事業のベースに置いている当社にとって、強く意識しなければならない現象であります。事業活動に伴うさまざまな環境への負荷を真剣に受け止め、全社一丸となって環境教育、省エネルギー・省資源、廃棄物の削減、リサイクルの推進活動に努めてまいります。
- ▶ 2023年度は、生産の効率化を進めたことから、エネルギー使用量、CO₂排出量、水使用量、および排水量が減少しました。2023年度の環境目標のうち、「水使用量原単位 35m³/t以下」は達成できませんでしたが、「CO₂排出量原単位 前年比1%削減」および「廃棄物のリサイクル率 96%以上」については、目標値を達成しました。
- ▶ 次年度も生産体制の見直しや業務の効率化を進め、生産性の向上により環境目標を達成すべく取り組みを強化してまいります。



代表取締役社長

山田潤

環境理念

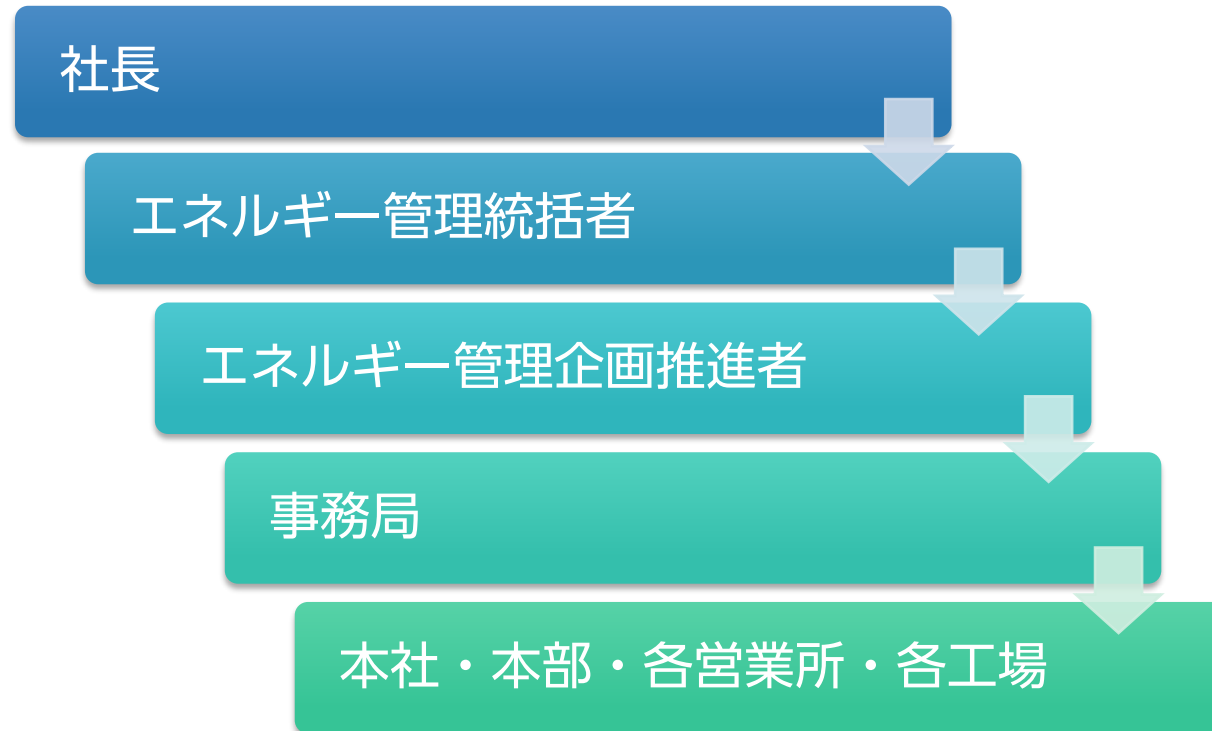
- ▶ すべての企業活動において環境保全に努め、資源やエネルギーの有効活用など、地球にやさしい取り組みを積極的に行います。

環境方針

- ▶ 法令を順守するとともに、環境マネジメントシステムを構築し、自主的な目標を設定して環境問題に取り組み、持続的な改善に努めます。
- ▶ 全ての事業活動において、省エネルギー、省資源、廃棄物排出抑制、リサイクルを推進します。
- ▶ 環境に配慮した製品の開発に努めます。
- ▶ 社員一人ひとりの環境教育に努め、環境を大切にする企業風土をつくります。
- ▶ 環境情報を開示し、協力会社、社会とのコミュニケーションを推進します。

環境活動推進体制

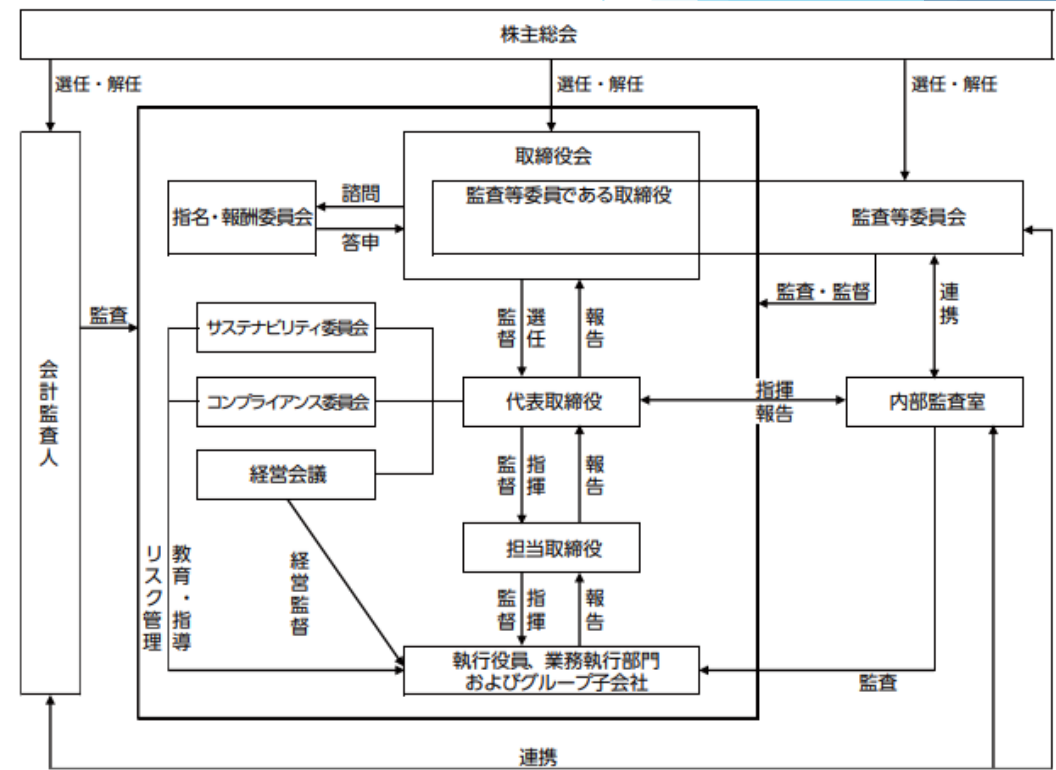
- ▶ 当社のエネルギー管理体制は、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」(省エネ法)に基づき、社長をトップとした組織で運営・管理しています。



コーポレートガバナンス体制 およびリスク管理体制

(2024年3月現在)

- ▶ 当社はステークホルダーからの信頼を高め、企業価値を最大化するため、子会社を含むコーポレートガバナンスの強化・充実を経営の最重要課題として位置付けています。
- ▶ 取締役会では子会社を含む経営計画の監督を実施し、監査等委員会は、取締役会はもとより内部監査室、会計監査人との連携により、実効性のある監査・監督を実施しています。
- ▶ リスクについては、取締役会で審議するだけでなく、全取締役と管理職で構成されるサステナビリティ委員会を設置し、当社グループ全体で発生が予想されるサステナビリティ関連を含む各種リスク及び機会を特定し、必要な施策を決定するとともに、その遂行状況のモニタリングを行います。また、発生したクライシスへの対応についての報告、対応策の決定等、リスク管理上の重要な問題を審議しています。



会社概要

(2024年3月現在)

- ▶ 会社名 焼津水産化学工業株式会社
Yaizu Suisankagaku Industry Co.,Ltd
- ▶ 本社 〒425-8570 静岡県焼津市小川新町五丁目8番13号
- ▶ 主な事業所 静岡本部、焼津本社、東京R&Dラボ
東京営業所、大阪営業所、中部営業所、九州営業所
バンコク事務所
焼津・団地工場、大東工場、掛川工場
- ▶ 創業 1959年
- ▶ 資本金 36億1,700万円
- ▶ 従業員 176名(単体)、200名(連結)



事業概要

- ▶ 天然調味料、機能性食品の製造・販売
- ▶ 水産物事業、その他食品の製造・販売
- ▶ 当社は1959年に、魚の残渣から飼料・肥料の製造および肝油製造を目的に設立されました。まもなくエキス調味料の製造に方針を転換、天然調味料や乾燥食品へと製品の幅を広げていきました。
- ▶ 1980年以降には機能性素材の開発を本格的に開始、当時、肥料化するしか用途のなかったカニ殻からキチン、キトサンを精製し、販売を始めました。これを出発点にキチンオリゴ糖、N-アセチルグルコサミンを製造、この技術を活かして海洋性のアンセリン、フコースなどの機能性新素材を世に送り出しています。





即席めん



冷凍食品



そばつゆ・めんつゆ



ドレッシング



機能性飲料



サプリメント



機能性表示食品



肥料



機能性肥料

01 液体調味料

- | 魚介エキス | 畜肉・野菜エキス | 調味オイル |
|-----------|----------|----------|
| ・鰹節・昆布エキス | ・チキンエキス | ・魚介オイル |
| ・煮干エキス | ・ビーフエキス | ・香味野菜オイル |
| ・エビ・カニエキス | ・野菜エキス | |
| ・貝エキス | ・椎茸エキス | |

03 機能性素材

- | | |
|---------------|-------------|
| ・N-アセチルグルコサミン | ・キトサンオリゴ糖 |
| ・アンセリン | ・グルコサミン |
| ・フコース | ・フィッシュコラーゲン |
| ・キチン | ・コンドロイチン硫酸 |
| ・キチンオリゴ糖 | ・フコイダン |
| ・キトサン | ・低分子量キチン |

02 粉体調味料

- | エキスパウダー | 果汁パウダー | 節類粉末 | 乾燥具材 | 調味顆粒 |
|------------|---------|--------|--------|--------|
| ・魚介エキスパウダー | ・オレンジ | ・鰹節 | ・味付削節 | ・低塩調味料 |
| ・畜肉エキスパウダー | ・ストロベリー | ・煮干 | ・乾燥海産物 | ・コンソメ |
| ・粉末醤油 | ・バナナ | ・乾燥農産物 | ・だし顆粒 | |



外食産業



カニかまぼこ



スナック



惣菜パン・菓子パン



キャンディ・グミ



風味調味料



ふりかけ



お茶漬け



化粧品



国内の食品メーカーをはじめ、健康・医療・美容関連企業が、当社の調味料や機能性素材を原材料にしてさまざまな商品を製造し、市場に送り出しています。

このイラストは、その商品市場のアウトラインです。

このように当社の調味料や乾燥食品からは、だしの素、めん類のつゆ、即席めん、冷凍食品、カニかまぼこ、スイーツ類、スナック菓子、ふりかけ、お茶漬けなど、実に幅広い商品が生まれます。

機能性素材からは各種サプリメントや機能性飲料、化粧品などが作られています。

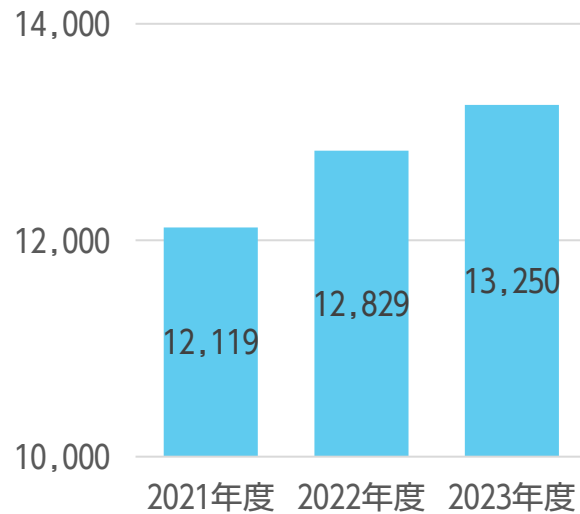
- ▶ 2001年には東京証券取引所 市場第1部へ上場しました。
(2024年の株式公開買付に伴い、2024年6月に上場廃止となっております)
- ▶ 2018年には主力の掛川工場にて国際的な食品安全システム認証であるFSSC22000を取得しました。2022年には残る焼津・団地工場、大東工場でも同認証を取得しており、更なる顧客満足と食品安全の確保に注力しています。
(2002年にISO9001の認証を全社取得しましたが、FSSC22000認証取得により2023年2月をもって自主返上しています)
- ▶ 現在、魚介類を原料とする天然調味料のリーディングカンパニーであり、健康や美容に関わる機能性素材の研究・製造でも高い評価を得ています。当社は研究開発型企业としての道を更に力強く前進します。

財務報告

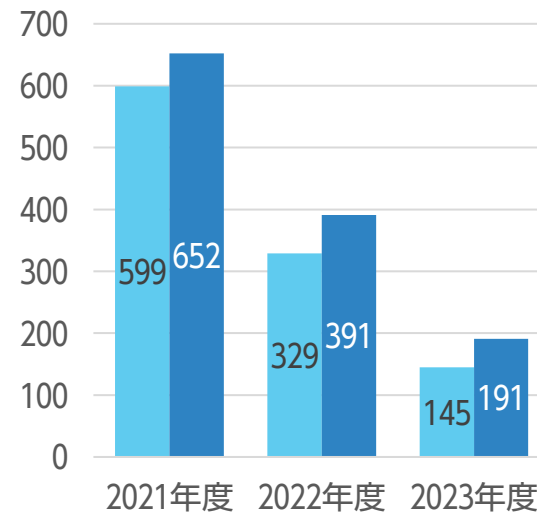
損益概要

※単位は百万円

連結売上高

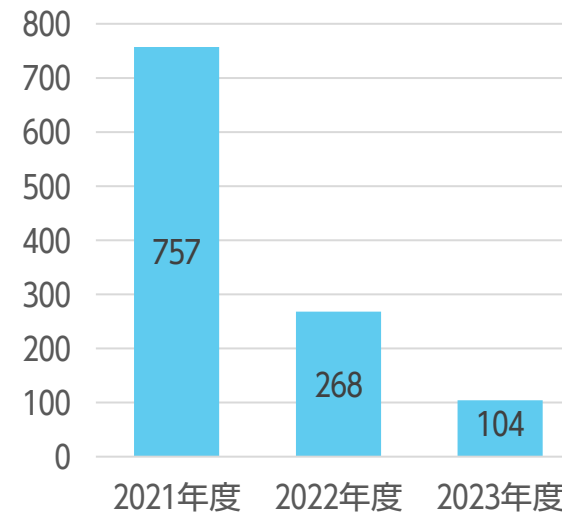


連結営業利益 連結経常利益



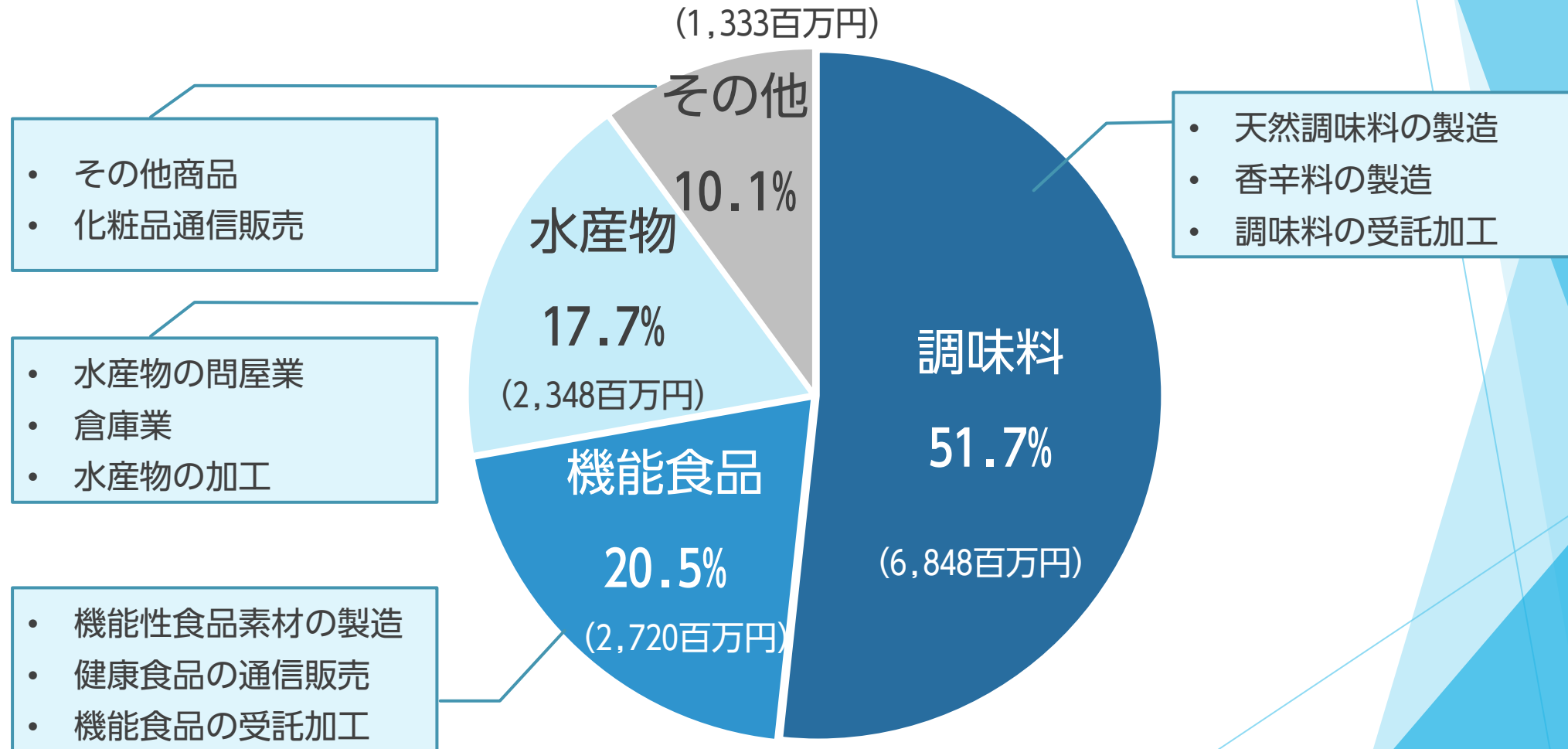
■ 連結営業利益 ■ 連結経常利益

当期純利益



財務報告

2023年度セグメント別売上高



工場周辺の環境に対する取組

当社の掛川工場、大東工場の2工場では、工場敷地の境界で定期的に臭気、騒音、振動の測定をしています。騒音・振動の測定結果については、掛川市に報告しています。
全項目について、2023年度も問題のないことが確認されています。

▶ ばい煙測定 <外部業者に委託>

大気汚染防止法に基づき、年2回実施しています。
当社は全ての工場で、ボイラー燃料を重油からLNGへ転換しており、硫黄酸化物の排出が低減されております。

▶ 騒音・振動調査

騒音・振動規制法に基づき、年2回実施しています。
検査結果は市役所に提出しています。

▶ 臭気測定 <外部業者に委託>

掛川市との協定に基づき、年1回実施しています。



▶ 排水浄化の取り組み

当社は全工場で、年間約20万m³の水を排出しています。そのうち、焼津・団地工場では、水産加工団地の共同排水処理施設に委託処理していますが、大東工場、掛川工場では自社設備で排水を浄化して河川に放流しています。当社の処理施設では、有機物を微生物によって分解する「活性汚泥法」によって約2日間かけて浄化しています。

大東工場の排水処理施設では、空気を微細な穴に通すことで細かい泡を作る「超微細気泡散気装置」を用い、排水の中の酸素量を増やすことで微生物を活性化し、浄化効果を高めています。また、牡蠣の殻を使って浄化するシステムも取り入れています。これは、微生物が牡蠣の殻にある細かい穴に棲みつきやすい性質を利用したものです。

掛川工場の排水処理施設では、臭気対策として処理場全体をコンクリートで覆っています。さらに、調整層、曝気槽の一部は暗渠構造となっており、臭気の大部分を抑えています。

浄化された水は、日々状態を確認して放流しており、月1回はpH(水素イオン濃度)、BOD(生物化学的酸素要求量)、SS(浮遊物質)、大腸菌群など6項目を法的な基準に応じて、外部機関に委託し、放流水検査を行っています。さらに、年に1回は掛川市協定に基づき、外部機関に委託し、43項目の検査を実施しています。

浄化処理で発生する余分な汚泥については、協力業者に委託して肥料化し、自然のサイクルに戻しています。



掛川工場排水処理設備



大東工場排水処理設備

地球温暖化防止への取り組み

- ▶ 1. 全社的な取り組み
 - ・ 中部電力管内の自社運営事業所に「CO₂フリー電気」を導入しています。
 - ・ オフィスにおける消費電力削減のため、クールビズ、ウォームビズ、休憩時間の照明OFFを継続しています。

- ▶ 2. 工場での取り組み
 - ・ 大東工場に太陽光発電システムの導入を行い、2023年度末から稼働しています。
 - ・ 2023年度末現在で、全27台が電動フォークリフトとなっています。
 - ・ チャーター便の集約や小口輸送の宅配便への切替など、輸送手段の最適化を進めています。

- ▶ 3. 営業活動等での取り組み
 - ・ 低燃費、低排出ガスのエコカー導入を積極的に進めています。2023年度末時点で使用している乗用車28台のうち、19台がハイブリッド車となっています。



環境コミュニケーション・CSR活動報告

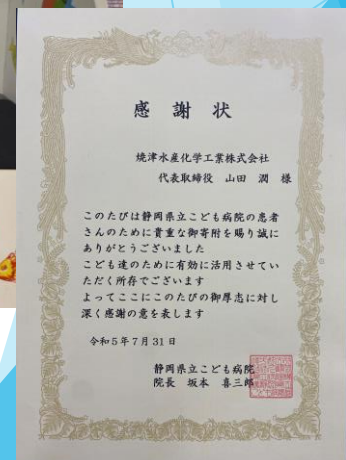
- ① 本社のある焼津市で、定期的に地域清掃活動（焼津の海岸）を実施しています。

2023年度は7月と11月の2回参加し、多くの社員が参加しました。

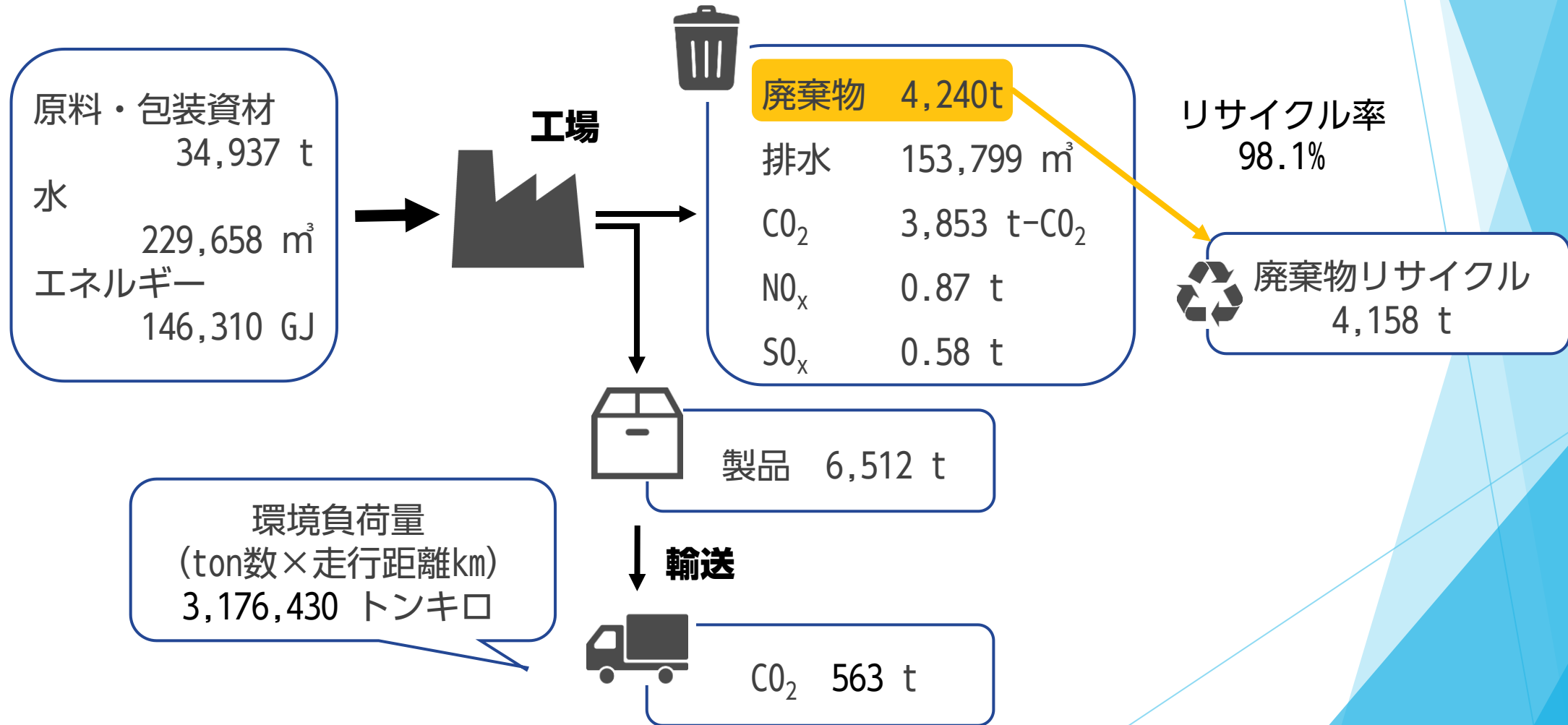


- ② これからの未来を支える子供たちのための取り組みとして、2022年9月に静岡県立こども病院へ「紙アプリ」を寄贈しており、今年度も維持経費の寄付を行いました。

同アプリは子供たちが描いた絵がモニターの中で水族館のように動き出すアプリで、子供たちに笑顔が増えたとの謝辞を頂きました。



工場における物質とエネルギーの流れ



環境目標および実績

- ▶ 2023年度は、エネルギー使用量はわずかに減少しましたが、製品製造量が減少したため、同原単位は増加しました。
CO₂排出量は大きく減少したため、同原単位も大きく減少しました。

水使用量、排水量も大きく減少しました。

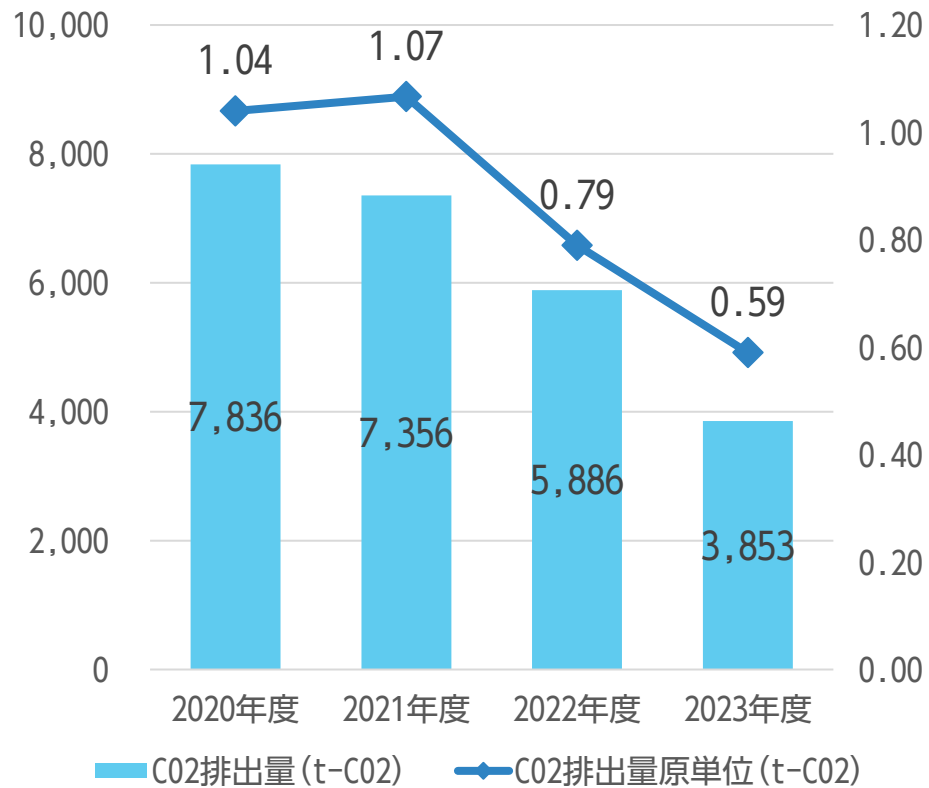
- ▶ 2023年度に設定しました環境目標のうち、「CO₂排出量原単位 前年比1%削減」、
「廃棄物のリサイクル率 90%以上」については達成となりました。

一方、「水使用量原単位 35m³/t以下」については不達成となりました。

※ 原単位とは製品トンあたりの使用量・排出量を表す

環境目標および実績

環境目標 1 : CO₂排出量原単位 前年比1%削減



CO₂排出量は、昨年度途中から導入したCO₂フリー電力の効果に加え、生産の効率化施策を継続実施したため、CO₂排出量は前年比2,033t-CO₂ (34.5%) 減少し、3,853t-CO₂となりました。

CO₂排出量原単位は、前年比0.20t-CO₂ (25.1%) 減少し、0.59t-CO₂となりました。

これにより、前年比1%削減という2023年度の環境目標は達成となりました。

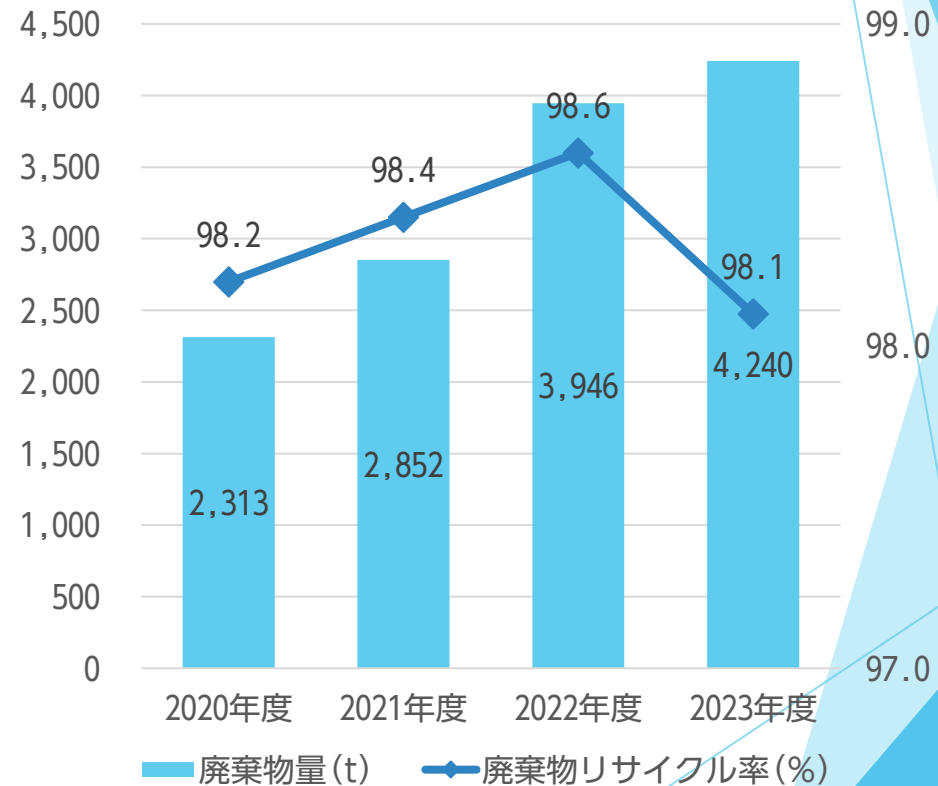
環境目標および実績

環境目標 2：廃棄物のリサイクル率96%以上

2023年度の廃棄物量は、前年比295t (7.5%)増加し、4,240tとなりましたが、そのうち98.1%の4,158tがリサイクルされています。

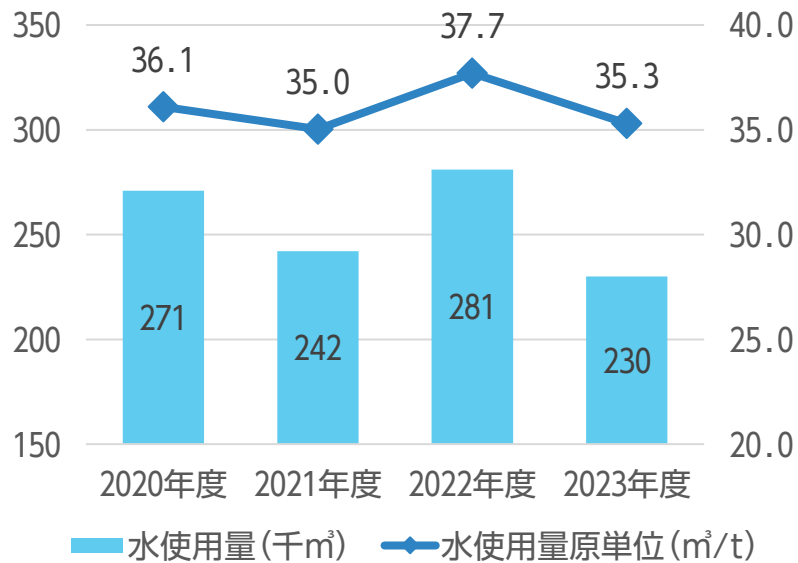
リサイクル率はわずかに下落しましたが、環境目標である96%以上をクリアした状態を引き続き維持できました。

食品の加工残渣は肥料等として、原料包材のようなプラスチック類は固形燃料としてリサイクルされています。



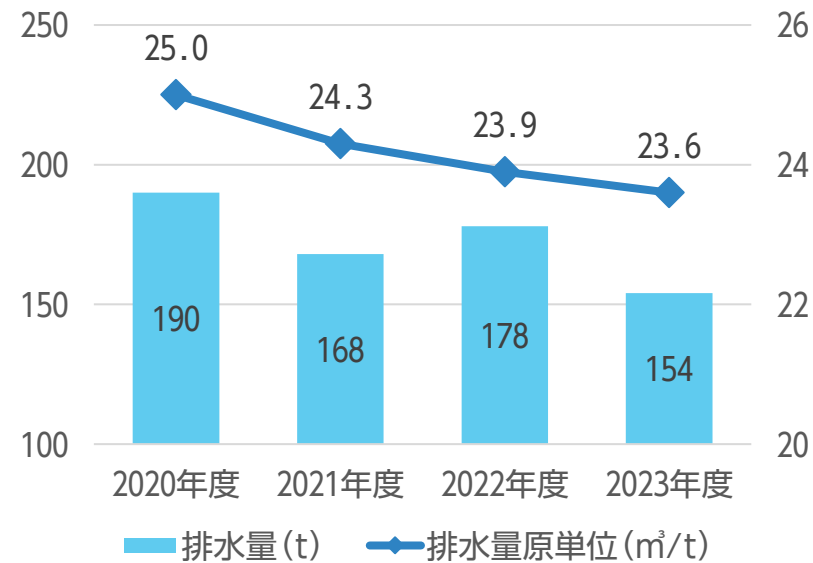
環境目標および実績

環境目標 3：水使用原単位 35m³/t以下



水使用量は、節水を図った結果、前年比52千m³(18.3%)減少し、水使用量原単位についても2.4m³/t(6.5%)減少し、それぞれ230千m³、35.3m³/tとなりました。

2023年度の水使用原単位は35.3m³/tとなり、環境目標は達成できませんでした。



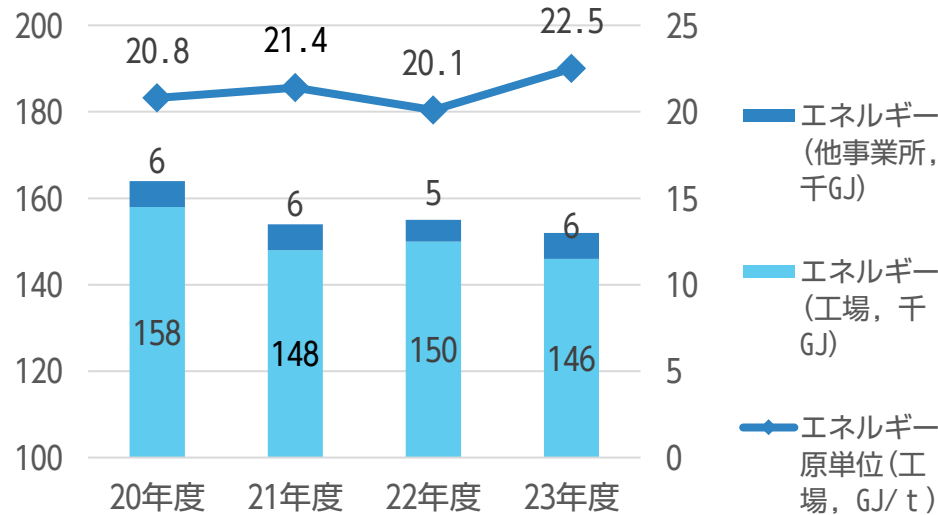
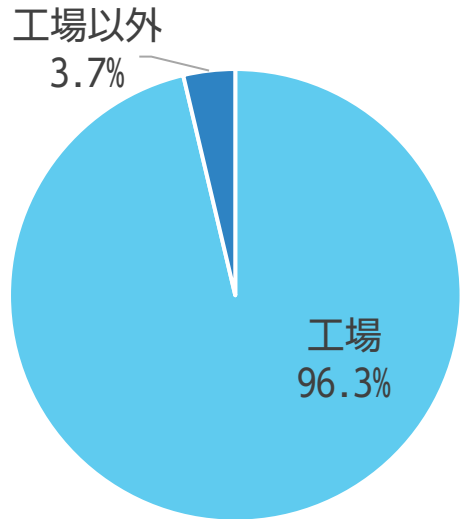
排水量は、水使用量が減少したため、前年比24千m³(13.7%)減少し、154千m³となりました。排水量原単位については、前年比0.4m³/t(1.5%)減少し、23.6m³/tとなりました。

2024年度の環境目標

1. CO₂排出量原単位 前年比1%削減
2. 廃棄物リサイクル率96%以上
3. 水使用原単位 35m³/t以下

当社事業所のエネルギー使用について

全事業所のエネルギー使用量とその推移

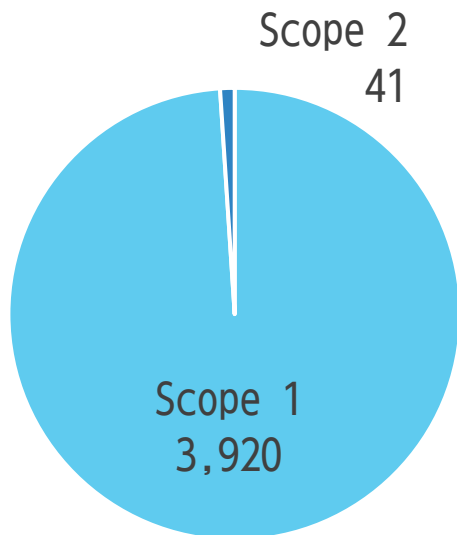


▶ 当社全事業所の2023年度のエネルギー使用量は152千GJで、その約96.3%を工場で使用しています。

▶ 当社全事業所の2023年度のCO₂排出量 (Scope 1および2) は3,961t-CO₂で、CO₂フリー電力の効果により、そのほとんどがScope 1でした。

全事業所のCO₂排出の内訳

(単位: t-CO₂)



Scope 3については、現状では製品の出荷・輸送にかかわるカテゴリ9の一部のみ算出しています。

環境関連法規への違反・訴訟の有無

- ▶ 2023年度において、環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係当局による違反の指摘および訴訟は過去3年間ありませんでした。

	2021年度	2022年度	2023年度
環境に関する法令違反	なし	なし	なし
環境に関する訴訟・罰金等	なし	なし	なし

修正履歴

- ▶ 2024年11月6日 新規発行



焼津水産化学工業株式会社

静岡県焼津市小川新町5-8-13

TEL：054-202-6030

FAX：054-202-6031

本環境報告書は2024年11月6日に発行しました。
当社ウェブサイトから環境報告書PDFを
ダウンロードできます。

URL：<https://www.yskf.jp/company/csr.html>



見やすく読みまちがいにくい
ユニバーサルデザインフォントを使用しています。